内宮慶之FP事務所

〒543-0028
大阪市天王寺区小橋町12-2
ホワイトレジデンス1101号

e-mail：fp.uchimiya@gmail.com
携帯電話：090-9803-7479

お気軽にご相談下さい 06-7163-9225

内宮慶之FP事務所 検索

FP Topics ＝ライフプランにおける保険の考え方＝ 2021年5月号

5月、新緑の季節ですが、ここ大阪では早くも梅雨入りしているようです。これは、観測史上最も早い梅雨入りだそうです。梅雨入りが早い年は、梅雨の期間が長引くそうです。なるべく早く明けてほしいものです。

さて、今月号も保険のお話の続きをさせていただきたいと思います。ライフプランにおける保険の考え方というお題ですが、極論保険は必要なのか？ということにもなりそうです。

＝ライフプランにおける生命保険の考え方＝

先月号でもお話していましたが、そもそも保険とは、自身の資産で賄うことができないであろう、リスクに備えるものであり、“大切な人”を守るためのものという考え方が大前提になると考えています。

その備えるべき保障額は、一般的に次の表により算出した保障額となります。出典：日本FP協会 くらしとお金のワークブック

	項目	備考	金額
万一のときにかかるお金	末子が独立するまでの生活費	現在の基本生活費×70%×末子が独立するまでの年数が目安	円
	末子が独立した後の配偶者の生活費	現在の生活費×50%×（89歳*－末子独立時の配偶者の年齢）が目安	円
	子どもの教育費	P15で算出した教育費の目安を参考に記入	円
	子どもの結婚援助費		円
	死亡整理金（葬式代など）		円
支出合計 Ⓐ			円
万一のときの遺族の収入・貯蓄	遺族の収入		円
	公的遺族年金※下図を参照		円
	妻の老齢基礎年金・老齢厚生年金	※P31を参照	円
	勤務先からの死亡退職金・見舞金など		円
	現在の貯蓄総額	P11で記入した現金・普通預金・定期性預金・貯蓄型の保険などを合計	円
収入・貯蓄合計 Ⓑ			円
Ⓐ－Ⓑ＝必要保障額の目安			円

上記、表で算出された、A－Bが必要保障額となります。末子が独立するまでの生活費や学費などを見積り、お葬式代なども考慮します。そこから、貯蓄・遺族年金・死亡退職金等の公的社会保障制度による補填金を差し引いた金額が必要保障額の目安となります。

子にかかる必要保障額については、子の成長に反比例して、必要保障額は減少するはずです。子の成長年齢は計ることができますので、子の成長に合わせて必要保障額を逓減（減額）する保険商品“逓減定期保険”をお勧めします。非喫煙者ならより保険料を圧縮することが可能です。

具体的には、末子が大学を卒業するまでに必要な資金を見積ります。ワークブックには子供の結婚援助費とありますが、私的には自分でなんとかしてくれ〜と思いますが・・・

また極論ですが、子が独立した後、必要保障はほとんど必要ないように思います。この部分はそれぞれの考えかたによるのではないでしょうか。

企業にお勤めの場合、遺族年金や死亡退職金などの公的社会保障制度がありますので、しっかり把握して必要な保障額を見積もる必要があります。

ライフプランニングやリタイアメントプランニング設計のご相談では、ご自身で加入されている保険の内容がよく分からない場合や、重複して保険に加入している場合も多々あります。

加入されている保険の保険証をすべて持参していただき、一契約ずつ確認していくことも多々あります。

必要な保障額をしっかり算出することなく、過大な死亡保険金額となっていることもよく見かけます。

独身男性に死亡保険金3,000万円なんてこともあります。一昔前は、保険商品を用いた資産運用も可能でしたが、現在の予定利率では、現実的ではありません。 保険は保険として活用すべきと考えています。必要な部分のみ、必要な保障額で、適正な保険料とするべきです。ライフプランを俯瞰すると過剰な保険料の支出は家計を大きく圧迫します、コロナ禍も相まって、一般家庭はそんなに余裕があるわけではないように感じます。

無駄な保険料月1万円は、年間12万円、10年で120万円、20年で240万円の支出になります。
一度見直されることをお勧めします。

＝ライフ・リタイアメントプランにおける医療保険の考え方＝

先月号では、医療保険にも定期保険と終身保険 がありますというお話をしていました。定期医療保険は、一定期間を保障する保険で、終身医療保険は一生涯保障が継続する保険です。

この医療保険が必要か否かはそれぞれの考え方がありますので、難しい問題です。以下のような公的保障制度がありますので、しっかり確認して必要な部分のみ加入されることではないでしょうか。

1カ月の医療費負担には上限がある

【高額療養費制度】　出典：日本FP協会 くらしとお金のワークブック

区分	年収の目安	70歳未満	70歳以上 通院の一部負担（個人ごと）	70歳以上 世帯全員の一部負担（通院+入院）
現役並み	約1,160万円～	25万2,600円+(医療費−84万2,000円)×1%（4回目以降:14万100円）		
	約770万～1160万円	16万7,400円+(医療費−55万8,000円)×1%（4回目以降:9万3,000円）		
	約370万～770万円	8万100円+(医療費−26万7,000円)×1%（4回目以降:4万4,400円）		
一般	約156万～370万円	5万7,600円（4回目以降:4万4,400円）	1万8,000円（年間上限14万4,000円）	5万7,600円（4回目以降:4万4,400円）
低所得者（住民税非課税世帯）		3万5,400円（4回目以降:2万4,600円）	8,000円	2万4,600円
	年金収入80万円以下など			1万5,000円

【介護保険制度】

介護保険のしくみを知ろう

要介護度別介護サービスの支給限度額（うち1割～3割を自己負担）と利用の目安

	利用の目安	支給限度額（月額）※
要支援1	日常生活上の基本動作を自分で行うことは可能だが、一部で見守りや手助けが必要な状態	5万30円
要支援2	日常生活上の基本動作を自分で行うことは可能だが、ときどき介助が必要な場合がある	10万4,730円
要介護1	認知症や心身の状態が不安定等の症状があり、生活の一部について部分的に介護を必要とする状態	16万6,920円
要介護2	軽度の介護を必要とする状態	19万6,160円
要介護3	中程度の介護を必要とする状態	26万9,310円
要介護4	重度の介護を必要とする状態	30万8,060円
要介護5	最重度の介護を必要とする状態	36万650円

※2019年10月以降、消費税増税に伴い若干の改定がある

医療・介護費を合わせた自己負担にも上限がある

一般的な収入なら上限額は年間56万円～60万円

区分	年収の目安	70歳未満	70歳以上
現役並み所得者	約1,160万円～	212万円	
	約770万～1,160万円	141万円	
	約370万～770万円	67万円	
一般	約156万～370万円	60万円	56万円
住民税非課税世帯		34万円	31万円
	所得が一定以下※		19万円

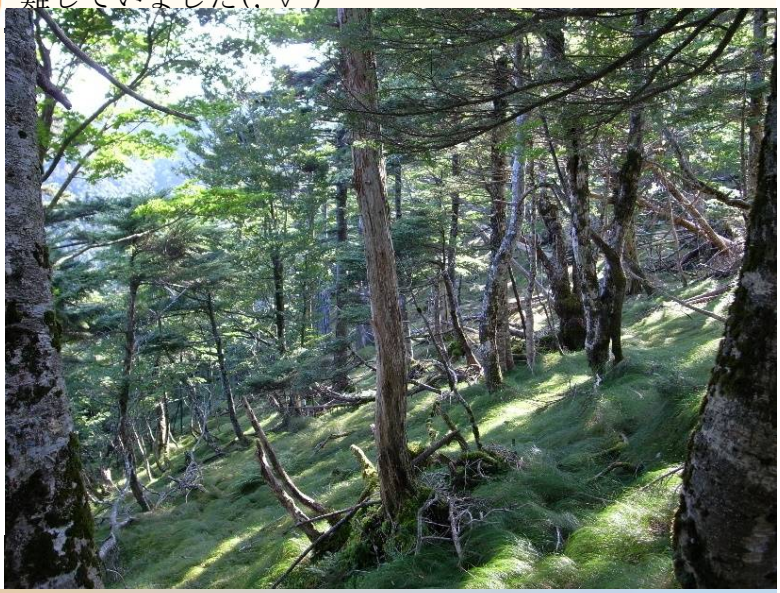
※年金収入のみの場合、単身世帯は約80万円以下、2人世帯は約160万円以下

～今月の山便り～

大峯奥駈道は、吉野“金峯山寺”～和歌山“熊野大社本宮”を結ぶ“祈りの道”というお話をしていました。その具体的な内容をお話してみたいと思います。写真は、大峯奥駈道南部の名峰”弥山”周辺の縦走路です。小学２年生、遠足で“二上山”を歩いて以来、山の美しさに魅せられてきましたが、こんなに美しく、自然豊かな山域があるのかと、たいへん驚きました。鹿やニホンカモシカなども多く生息しており、食料も豊富なのか、野生動物は丸々と太っています。

大峯奥駈道の主稜線で、営業している小屋はこの弥山近くの“弥山小屋”と最終地点である、熊野大社本宮直前の“玉置神社”（宿坊）だけとなります。大峯奥駈道を走破するためには、十分な水と食料を背負って歩く必要があります。

前述したとおり、大峯はたいへん美しく豊穣の森なのですが、水の確保には大変苦労する山域です。

山自体の保水機能は高いのですが、縦走路で登山者が恩恵を受ける湧き水はほんのわずかです。

水場があっても枯れていることが度々あります。わたしも当てにしていた水場が枯れていて、たいへん困った経験があります。水は常時余分に背負うことが重要です。水場にありつけると、大峯の水はほんとに美味しいです。ウイスキーの水割りやチェイサーにすると、ウイスキーの甘さが格段に上がるように感じます。一気に和歌山まで歩くとすると、最短で５泊６日程度、少し余裕を持たせて６泊７日は必要になります。毎日の行動時間も10時間を優に超えます。食料は予備も含めて1週間分は背負う必要があるでしょう。宿泊については無人の避難小屋を利用することができるので、テントの重量を軽減することができますが、非常時に備え、ツエルトは必ず持参する必要があります。来月号では、初チャレンジ時の敗退山行をお話したいと思います。ほぼ遭難していました(;’∀’)